

# 第12回水先人の人材確保・育成等に関する検討会

## 議事次第

1. 日 時 平成30年6月21日（木） 13：30～15：30
2. 場 所 海事センタービル4階 401・402会議室
3. 次 第
  - (1) 開会挨拶
  - (2) 議事
    - ① モニタリング委員会中間報告
    - ② 水先人の責任制限等のあり方に関する勉強会中間報告
    - ③ 2級及び3級水先人の業務範囲の見直しに関する調査・研究
    - ④ 水先人養成支援対象者の募集要件（英会話能力）について

## 水先人の人材確保・育成等に関する検討会 委員名簿

(五十音順、敬称略)

- 池谷 義之 全日本海員組合国際局長  
石橋 武 日本水先人会連合会会長  
今津 隼馬 東京海洋大学名誉教授  
大久保安広 (公社) 日本海難防止協会専務理事  
◎ 落合 誠一 東京大学名誉教授  
小野 芳清 (一社) 日本船主協会理事長  
葛西 弘樹 (一社) 日本船長協会会長  
片岡 徹 日本水先人会連合会副会長 (大阪湾水先区水先人会会長)  
加藤 雅徳 (一社) 日本船主協会港湾委員会委員  
門野 英二 (一社) 日本船主協会港湾委員会委員  
小山 智之 (一社) 日本船主協会港湾委員会委員  
竹口 信和 海技大学校水先教育センター長  
立石 尚登 日本内航海運組合総連合会船員対策委員会委員  
西本 哲明 日本水先人会連合会副会長 (東京湾水先区水先人会会長)  
○ 羽原 敬二 関西大学政策創造学部教授  
藤瀬 一則 日本水先人会連合会理事 (博多水先区水先人会水先人)  
松本 恭昇 日本水先人会連合会水先業務研究委員会委員長  
村瀬 千里 外国船舶協会専務理事

### 【国土交通省】

- 蒲生 篤実 海事局長  
馬場崎 靖 大臣官房審議官 (海事)  
堀 真之助 海事局海技課長  
大橋 伴行 海事局総務課首席海技試験官  
長瀬 洋裕 海事局海技課企画調整官  
野村 秀 海事局海技課水先業務調整官  
福西 謙 港湾局計画課港湾計画審査官 (オブザーバー)  
笠尾 卓朗 海上保安庁交通部航行安全課長 (オブザーバー)

### 【(一財) 海技振興センター】

- 伊藤 鎮樹 理事長  
野中 治彦 常務理事  
戸摩 辰雄 常務理事  
庄司新太郎 技術・研究部長

(注) 「◎」は座長、「○」は座長代理

## 配付資料一覧

資料1	モニタリング委員会中間報告	1
資料2	水先人の責任制限等のあり方に関する勉強会中間報告	18
資料3	2級及び3級水先人の業務範囲の見直しに関する調査・研究	27
資料4	水先人養成支援対象者の募集要件（英会話能力）について	31

以上

## モニタリング委員会中間報告

# 水先人の人材確保・育成等に関する検討会

## モニタリング委員会

### 1. モニタリング委員会の設置目的

水先人の人材確保・育成等に関する検討会（以下、「検討会という。」第二次とりまとめにおいて当面（3年間程度）、その取組みの状況を注視していくことが適当とされた対象項目について、定期的にその効果について評価検証を行うことを目的としてモニタリング委員会（以下、「委員会」という。）を設置する。

### 2. 評価検証の対象項目

- ① 内海水先区水先人会が進める業務改善や募集活動の取組状況の推移
- ② 「安全かつ円滑な水先業務の確保」のため各水先人会が改正した水先人会会則の実効性
- ③ 「中小規模水先区の水先人不足に対する円滑な派遣支援の確保」のため各水先人会が改正した水先人会会則の実効性

### 3. モニタリング委員

別紙のとおり。

### 4. スケジュール

3～4月毎に開催することとし、年に1～2回程度、検討会へ評価検証結果を報告する。

### 5. 委員会の運営

- ① 検討会の下部組織として設置、国土交通省海事局と（一財）海技振興センターが共同して事務局を努める。
- ② 委員は、評価検証項目に応じて入れ替えることができる。
- ③ 委員が欠席の場合又は委員の代わりとしてその代理者が出席して意見を述べ又は説明を行うことができる。
- ④ 委員会は、議事の公開により当事者のプライバシー等を侵害する恐れがあることから非公開とする。

## 委員名簿

### 【船社関係委員】

田中 俊弘	一般社団法人日本船主協会常務理事
中原 賢	一般社団法人日本船主協会水先幹事会幹事長
井上 徳親	一般社団法人日本船主協会水先幹事会幹事
金丸 博	一般社団法人日本船主協会水先幹事会幹事
佐々木 将雄	一般社団法人日本船主協会水先幹事会幹事
清水 洋	一般社団法人日本船主協会水先幹事会幹事
春名 克彦	一般社団法人日本船主協会水先幹事会幹事
村瀬 千里	外国船舶協会専務理事
川原 竜太郎	外国船舶協会会員船社

### 【水先関係委員】

松本 恭昇	日本水先人会連合会水先業務研究委員会委員長
増井 眞	日本水先人会連合会水先業務研究委員会委員長代理
小見山 純郎	日本水先人会連合会品質管理小委員会委員長
久永 一男	日本水先人会連合会品質管理小委員会委員長代理
山本 高司	日本水先人会連合会品質管理小委員会委員
齋藤 實	内海水先区水先人会会長
藤瀬 一則	日本水先人会連合会理事（博多水先区水先人会会長）
松村 泰材	日本水先人会連合会常務理事

### 【国土交通省】

堀 真之助	海事局海技課長
長瀬 洋裕	海事局海技課企画調整官
野村 秀	海事局海技課水先業務調整官

### 【事務局】

国土交通省海事局海技課  
（一財）海技振興センター

会則実効性の検証対象事例  
(平成29年4月以降)

平成29年12月22日現在

No.	発生日	水先区	事例の概要	水先会の措置	旧規則での措置(推定)
1	7月5日	東京湾	離棧回頭時、船首が係船用スターンドルフィンに接近	嚴重注意及び嚴重指導 業務制限 操船シミュレータ訓練	注意及び指導
2	7月9日	内海	不適切と感じさせる操船 本船船長及び乗組員に対する不適切な業務態度	業務自粛 操船シミュレータ訓練 BRM研修	会長からの指導
3	7月22日	東京湾	着棧時、オーバーラン	嚴重注意及び嚴重指導	注意及び指導
4	7月28日	伊勢三河湾	応招時刻の遅延	注意通知	会長の指導
5	10月8日	東京湾	着棧すべく水路航行時、水路を逸脱し浅瀬に接近	嚴重注意及び嚴重指導	注意及び指導
6	10月8日	東京湾	航路横切り時、他船に接近	嚴重注意及び嚴重指導 操船シミュレータ訓練	注意及び指導
7	10月28日	東京湾	強風下の着岸位置調整の際、タグ使用と係船索のハン ドリングのタイミングが合わず、船体が岸壁に接近	(業務対応について助言)	—
8	11月20日	伊勢三河湾	着棧アプローチ中、過大な速度での棧橋接近	業務制限 再教育訓練	会長の指導

会則実効性の検証対象事例  
(平成29年12月以降)

平成30年6月5日現在

No.	発生日	水先区	事例の概要	水先会の措置	旧規則での措置 (推定)	備考
1	平成29年 12月 4日	関門	関門橋手前での追越しと反航船とのニアミス	会長の指導	会長の指導	関門海峡海上交通センター と会合
2	12月24日	伊勢三河湾	本船嚮導中、他船(VLCC)に異常接近	注意処分の通知	会長の指導	
3	12月29日	伊勢三河湾	乗船時間に合わせた水先艇出発時間に10分遅れて乗船	注意処分の通知	会長の指導	
4	平成30年 1月 4日	大阪湾	航路入口でノーパイロット船とのニアミス	再教育訓練(シミュレータ訓練の受講)	口頭での注意	
5	1月11日	東京湾	会の標準着棧速力を若干超過して着棧、フェンダー等損傷なし	会長による厳重注意	会長の指導	
6	1月12日	大阪湾	隣接水先区水先人との交代点に速度を持ちすぎて早着し、浅瀬に接近	再教育訓練(シミュレータ訓練の受講)	口頭での注意	
7	2月 7日	大阪湾	入港時、着岸態勢中の先行船に異常接近	再教育訓練(シミュレータ訓練の受講)	口頭での注意	
8	3月19日	内海	狭水道において変針のタイミングが遅れ、島へ接近した。	会長による厳重注意及び指導	会長による注意	
9	3月26日	東京湾	北航中、南航船群の間隙を横切る際にノーパイロット船と異常接近	会長による厳重注意	会長の指導	



## 水先人派遣支援（中小規模水先区の業務維持）の状況について

水先人の後継者確保が困難な水先人会の業務実施体制を確保するため、全国の水先人会及び水先人各位の理解と協力を得て、近隣水先区及び大規模水先区からの派遣支援（支援体制の整備）を行っている。

現在の派遣支援の状況及び今後の複数免許取得計画は次のとおり。

### （１）水先人派遣支援の状況

- ・ 複数免許取得者の累計数： 38人  
(3水先区の免許取得者2人を含む。)
- ・ 派遣支援への協力者数： 29人
- ・ 派遣支援対象水先区： 17水先区（相互支援を含む。)

### （２）今後の複数免許取得計画

#### ①前期課程（6月4日～7月3日）

##### ○近隣水先区からの支援

- ・ 小樽水先区の複数免許 室蘭1人
- ・ 釜石 〃 八戸1人
- ・ 〃 〃 鹿島1人
- ・ 小松島 〃 和歌山下津1人

##### ○大手水先区からの支援

- ・ 那覇 〃 伊勢三河湾1人

4区 5人

#### ②後期課程（10月2日～11月1日）

##### ○近隣水先区からの支援

- ・ 釜石水先区の複数免許 小名浜1人
- ・ 〃 〃 仙台湾1人
- ・ 七尾 〃 伏木1人
- ・ 舞鶴 〃 1人（未定）
- ・ 境 〃 1人（未定）
- ・ 細島 〃 博多1人

##### ○大手水先区からの支援

- ・ 那覇 〃 1人（未定）

6区 7人

水先人派遣支援体制の状況

平成30年5月

地区/水先人会	近隣水先区の相互支援 (スポット支援)	大規模区からの派遣支援 (スポット/滞在支援)
①北海道 釧路、函館、苦小牧、室蘭、小樽、留萌	室蘭(1) → 函館 室蘭(1) ⇄ 小樽(1) 小樽(1) → 釧路 小樽(1) → 留萌 苦小牧(1) ⇄ 室蘭(1)	
②東北 八戸、釜石、仙台湾、小名浜、鹿島	八戸(1) → 釜石 仙台湾(1) → 釜石 小名浜(1) → 釜石	東京湾(1) → 釜石
③日本海 秋田船川、酒田、新潟、伏木、七尾、舞鶴、境	室蘭(1) → 秋田船川 新潟(1) → 伏木 新潟(1) → 酒田	伊勢三河湾(1) → 酒田 ※
④東海近畿 田子の浦、清水、尾鷲、和歌山下津、小松島	清水(2) → 田子の浦 和歌山下津(1) → 小松島 和歌山下津(1) → 尾鷲	伊勢三河湾(1) → 尾鷲
⑤九州 博多、佐世保、長崎、島原海湾、細島、鹿児島、那覇	博多(1) → 島原海湾 佐世保(1) → 長崎	東京湾(1) → 細島 ※ 内海(1) → 細島 ※ 内海(1) → 那覇 ※ 内海(1) → 那覇 ※ 伊勢三河湾(1) → 島原海湾 ※ 関門(1) → 島原海湾 ※ 関門(1) → 島原海湾 ※

( ) : 支援水先人の人数、数字のみは一級水先人、○数字は二級水先人  
※ : 滞在型支援 (その他はスポット型支援)

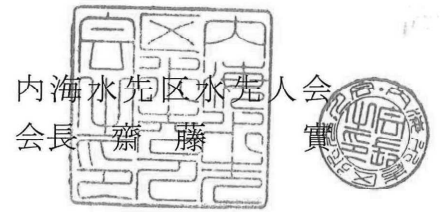
# 水先人派遣支援の現況(平成30年度複數免許取得計画)

H30.5.1現在

水先区	水先人数	専属水先人			派遣支援者の現況			H30新規入会者数		H30廃業者	H30年度計画		水先人数	
		1級			2級			1級			派遣支援者			
		1級	2級	3級	1級	2級	計	1級	2級		計	1級		2級
北海道地区 (22)	釧路	3			2		1	1	1					3
	小樽	6			5		1	1						6
	室蘭	5			3		2							5
	函館	3			2		1							3
	小樽	3			2		1					1	1	4
東北地区 (25)	留萌	2			1		1							2
	八戸	3			3									3
	釜石	5			1		4					4	4	9
	仙台	5			5									6
	小名浜	4			4									5
日本海地区 (22)	鹿島	8			8									9
	東京湾	178	144	26	8					4	△	3		179
	秋田	3			1		1			1				3
	酒田	3			1		2			1				4
	新潟	6			6					2	△	1		5
	伏木	3			2		1			1			1	3
	七尾	3			2		1						1	4
	舞鶴	2			2									3
	舞境	2			2									3
	伊勢三河湾	114	95	15	4					6	△	6		114
東海近畿地区 (17)	田子の浦	4			2		2							4
	清水	4			4									4
	尾鷲	2			1		1							2
	和歌山下津	5			4		1							5
	小松島	2			1		1						1	3
九州地区 (32)	大阪湾	108	90	10	8					3				111
	内海	146	122	19	5					9	△	7		148
	関門	37	30	5	2					2	△	1		38
	博多	6			6					1				7
	佐世保	4			4									4
全水先区合計	長崎	4			3		1							5
	島原海灣	6			1		2			1				7
	細島	3			1		2						1	4
	鹿児島	3			3									3
	那覇	6			3		4			2			2	8
	伊勢三河湾、(未定)												2	
	内海(2)				2		2						2	
全水先区合計	701	566	79	27	672	27	2	29	31	△	18	12	726	

※青字:前期課程、赤字:後期課程

日本水先人会連合会  
会長 石橋 武殿



内海水先区の現在の取組みについて

標記について、下記の通り、ご報告致します。

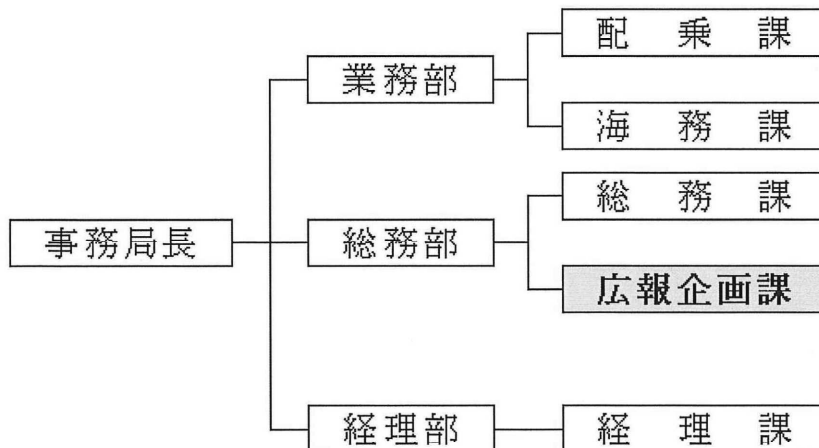
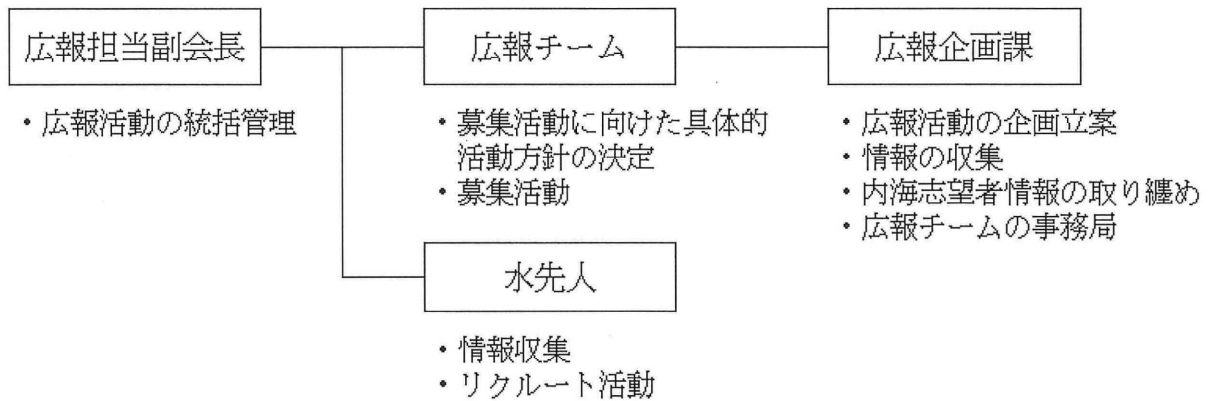
記

1. 募集活動強化に向けた組織としての取組み

(1) 組織の整備

従来より組織している「広報チーム」による募集活動を強化するため、広報担当副会長を選任。

本年4月1日より、事務局に「広報企画課」を新設、内海独自の広報戦略及びリクルート活動を行う体制を整えている。



内海独自の広報戦略及びリクルート活動を行う。また募集～養成教育まで一体的に運営する体制を構築する。

## (2) 水先人説明会の開催

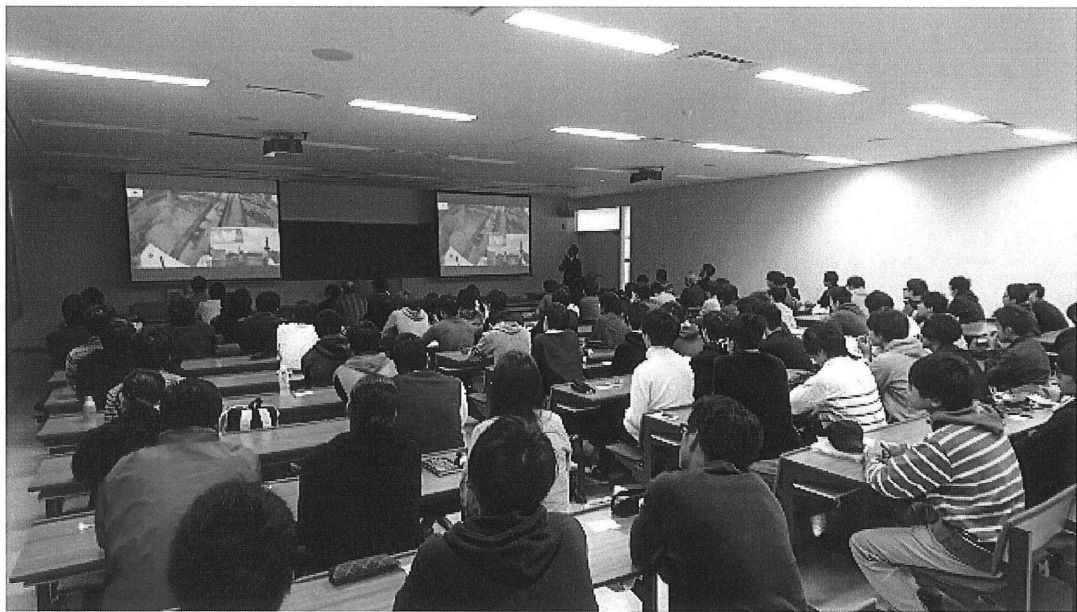
水先人志望者の発掘を目的として、海技系教育機関を中心に説明会を実施。

12月末現在までに開催した説明会は下記の通り。

本年度も参加者は既に400名を超えている。

尚、年明けには鹿児島大学、弓削・広島・大島各商船高専、海上自衛隊佐世保地方総監部で説明会を開催予定。

平成29年	4月11日	海上自衛隊 横須賀地方総監部
〃	4月26日	東京海洋大学
〃	7月13日	神戸大学海事科学部
〃	7月19日	鳥羽商船高等専門学校
〃	10月26日	水産大学校
〃	11月7日	沖縄水産高校（練習船：海邦丸五世）
〃	11月8日	富山高等専門学校
〃	11月20日	東海大学
〃	11月24日	海技大学校
〃	12月20日	長崎大学水産学部



## (3) 体験イベント

小学生・中学生に水先人という職業を知ってもらうと共に、海技教育の普及を目的として各種イベントに参加・企画。

将来的に、参加者から水先人が誕生することを目標として、今後も活動を継続していく予定。

平成29年	5月27日	「神戸・みなと体験」 神戸市みなと総局が企画するイベントに協力し、 操船シミュレータ体験、帆船「みらいへ」での操船 体験を実施。
-------	-------	---

平成29年 7月17日

「水先人体験」

公募した小学生を対象に操船シミュレータを一般開放した。

平成29年11月 6日  
～10日

「トライやる・ウィーク」

兵庫県が実施する中学生の職業体験に協力。  
乗下船の見学や操船シミュレータ訓練、事務局の職場体験等を実施した。



(4) 書籍「水先案内人」の寄贈

中学生・高校生に水先人という職業を知ってもらおうと共に、海技教育の普及を目的として、「水先案内人 - 瀬戸内海の船を守るものたち -」（晃洋書房：森 隆行 著）約850冊を全国の海技系教育機関、及び瀬戸内海各地の中学・高校に寄贈。四国地区の中学・高校にも寄贈を予定している。

《寄贈箇所一覧》

海技系教育機関

東京海洋大学、神戸大学、長崎大学、鹿児島大学、東海大学、海技大学校、商船高専5校、海上技術学校7校、水産高校48校

一般中学・高校

神戸市、岡山市、広島市、岩国市、周南市、防府市、山口市、宇部市、下関市、北九州市、福岡市、大分市



内海水先区水先人会

### 安全航行を支える専門家です

内海水先区水先人会（神戸市、海運員会長）はこのほど、神戸市教育委員会に森隆行・商船科学大学商学部教授の遺著『水先案内人-瀬戸内海の船を守るものたち』を

22冊寄贈した。同市教委を通じて、市内22校の中学校、高校、高等専門学校に配布する。今後は全国の水産高校、商船高等専門学校、大学などにも配布を予定している。

森教授著  
神戸市教委に92冊寄贈

### 港の仕事を職業に

今回の寄贈に神戸市教委は「神戸港が開港150年を迎えるに当たり、港で活躍する職業を子供たちが知る良い機会になる」とコメントした。

内海水先区水先人会では、パイロットの日常業務や資格取得の要件などが詳しく書かれている同本を読んでもらうことにより、学生が水先人を選択する契機となることを期待する。

神戸市教委に寄贈する贈贈会長(右)

(日本海事新聞：平成29年6月29日)

(5) WEBを利用した社会認知度の向上

ホームページ、フェイスブックを利用して水先人に関する情報を発信。

フェイスブックは週1回更新。現在の閲覧登録数は394件。(平成29年12月18日現在)。



(6) 事務所訪問

各活動の結果、事務所を訪問して個別に説明を聞きたいという希望者が増加したことから、随時、説明会を実施。

本年度は、現在までに1級志望者12名、2級志望者2名、3級志望者9名、計23名が来会している。

(7) その他

- ・海フェスタ神戸 うちわ700本、パンフレット900冊を無料配布
- ・PR動画製作 現在、PR用動画を製作中
- ・日本船長協会主催「子供たちに海と船を語る」に積極的に参加

## 2. サービス向上と効率化に向けた取り組み

### (1) ユーザーとの意見交換会

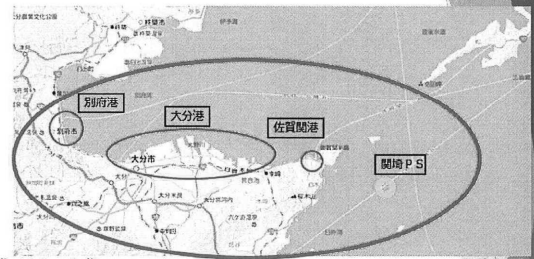
ユーザーの意見を反映した良質な水先サービスを実現するため、2～3ヶ月毎に瀬戸内海各地で意見交換会を実施。

平成29年は現在までに9回開催している。

平成29年	1月16日	大分コンビナート企業協議会物流分科会
〃	1月24日	姫路地区意見交換会
〃	2月23日	広島地区意見交換会
〃	3月27日	大分コンビナート企業協議会物流分科会
〃	6月13日	水島・福山地区意見交換会
〃	7月14日	大分コンビナート企業 物流分科会
〃	9月13日	〃 トライアルに関する打合せ
〃	10月20日	周防灘・荇田地区意見交換会
〃	10月24日	姫路港妻鹿LNGトライアル説明会


### (2) 大分地区のサービス向上トライアル

**大分地区を一体的に運用**



《メリット》

- 必要最少人数での運用に加えて、内海全域からの応援が可能のため、繁忙時にも時間調整を発生させることなく、効率的かつ柔軟な応招体制を実現。



**24h常時2名以上の体制を実現  
(デイトタイムは4名体制)**

- 大分地区全体の水先業務を4名+α(応援)でカバーできる(最少人数による効率的運用)
- 24h柔軟な応招体制の実現

大分港においてハーバー当直の増員要望があること、大分地区での水先隻数が増加傾向にあること等に鑑み、大分地区(大分港、別府港、佐賀関港、関埼)を一体的に運用して効率性の向上とサービス強化を実現すべく、本年2月1日よりトライアルを開始。

6月1日より、更に効率的に修正した再トライアルを、10月1日より担当水先人の休養時間に配慮した再々トライアルを継続中。

24時間体制での柔軟な対応、嚮導頻度の向上、移動・宿泊時間の削減等の効果があり、サービス面、効率面の双方でユーザーより高い評価を受けている。

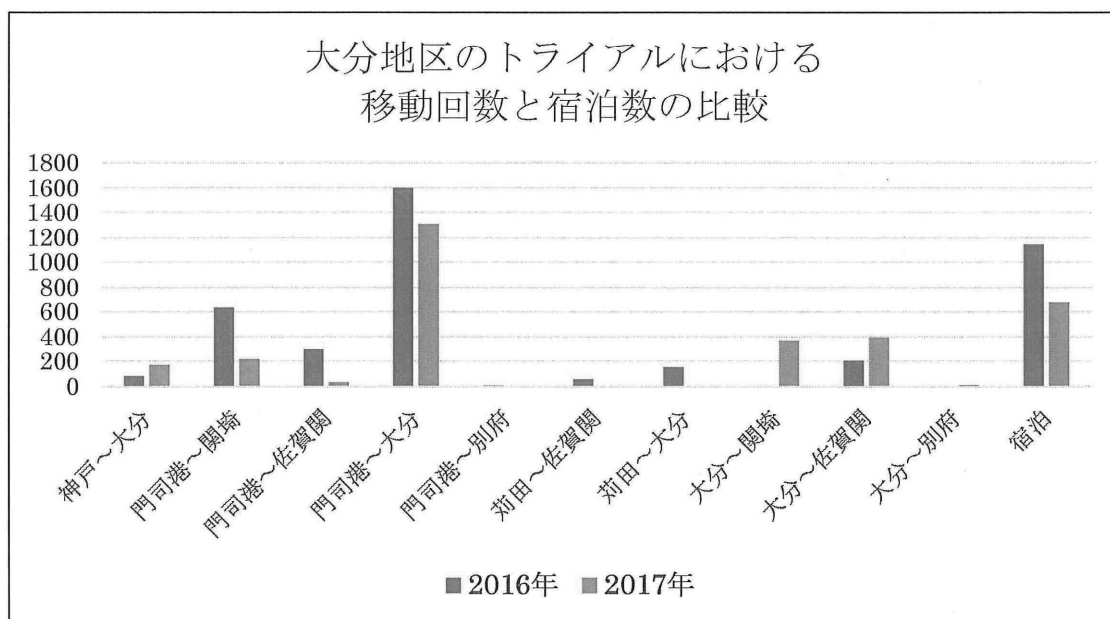
(別添 大分コンビナート企業協議会 物流分科会 議事録参照)



《大分地区のトライアルにおける移動回数と宿泊件数の比較》

	応募 隻数	神戸 ～ 大分	門司港 ～ 関崎	門司港 ～ 佐賀関	門司港 ～ 大分	門司港 ～ 別府	荇田 ～ 佐賀関	荇田 ～ 大分	大分 ～ 関崎	大分 ～ 佐賀関	大分 ～ 別府	宿泊 件数
2016 年	2132	86	634	305	1604	9	60	154	0	208	0	1148
2017 年	1840	172	217	36	1309	2	6	6	372	397	12	672

(\*但し、トライアルを実施している2月～11月のデータ)



\*表注 移動時間だけでも、10ヶ月間の概算で約2,400時間削減できている。

(3) 姫路港LNG船の嚮導頻度向上トライアル

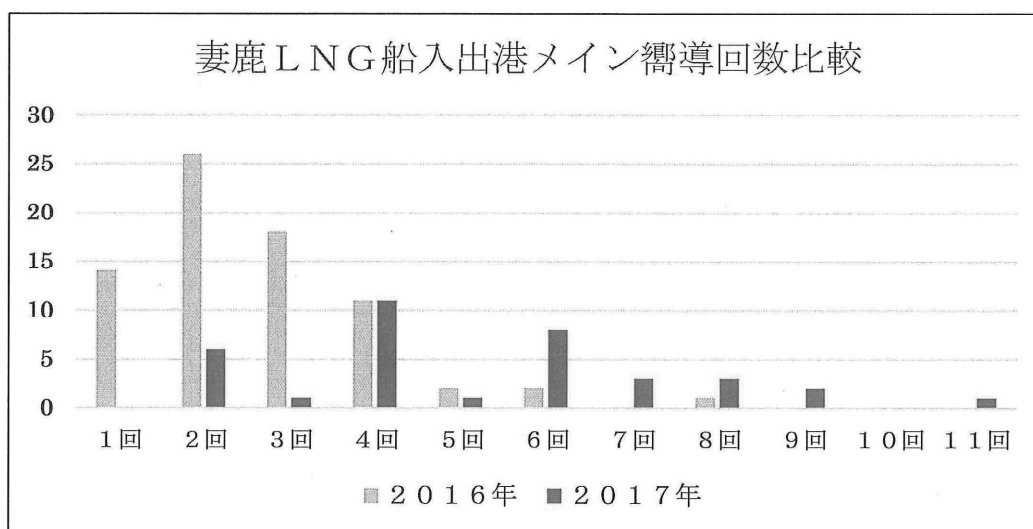
嚮導水先人を一定の条件を満たす水先人に限定し、入出港を同一水先人が担当するトライアル。

本年2月1日より継続実施しており、11月中旬より嚮導頻度の平準化を企図した修正トライアルを実施中。

関係各社より高い評価を受けている。(別添参照)

《修正トライアルの内容》

- ・1級水先人単独操船歴7年以上満68歳未満の水先人を「妻鹿担当水先人」に選任。(選任された水先人は満72歳未満まで有資格者となる。)
- ・妻鹿担当水先人が「姫路当直」として交代でハーバー当直(当該港に1週間常駐してハーバー業務を担当する)となり、姫路港に待機。妻鹿LNG船の入出港のメイン業務を担当する。



\*表注 メイン業務を担当した水先人の平均嚮導回数（入出港）は、2016年の2.62回（回数/10ヶ月間）に対し、トライアルを実施した2017年は5.17回に上昇している。

#### (4) 広島港のハーバー当直増員について

広島港での意見交換会においてPCCの同時S/Bの要望があったこと、並びに広島港を含む近隣諸港（徳山港、呉港、福山港等）のハーバー業務のスムーズなオペレーションに資するため、来春より、広島港にハーバー当直を増員する。尚、増員する水先人については、これまでの嚮導実績を勘案し、一定の条件を満たす2級水先人とする予定。

（\*進級2級の場合は3年目、新規2級の場合は2年目以降で、PCCに関する特別研修を実施した者。）

これにより、広島港におけるPCCの同時S/B、中四国地方のハーバー業務の安定的かつ効率的運用、2級・3級水先人の嚮導隻数の確保及び熟練度向上を目指している。

### 3. 水先人の安定的な確保に向けた取組み

内海水先区では、船社の船員数に左右されずに安定的に水先人を確保する体制を目指し、二級・三級水先人の継続採用と育成を推進している。

具体的には、本年度は三級水先人の募集を3名、追加募集を2名とし、計5名を採用した。

また、育成に当たっては、航行海域制限の段階的解除、対象船の優先配乗による嚮導隻数の確保、ハーバー業務の技術向上にむけた研修及びハーバー当直業務の開始等により、安全に配慮しつつ習熟度の向上を図っている。

以上

内海水先区水先人会殿

大分地区のサービス向上に向けた取り組みについて（トライアル実施結果報告会）

日時 2017年7月14日（金） 11-12時  
 場所 大分市内  
 出席 内海水先区水先人会 5名  
 大分コンビナート企業協議会 8社12名  
 関係機関 2社3名

## 1 大分港における水先人増強トライアルについて

大分港の船舶状況やコンビナート協議会要請等を踏まえた水先人会側の独自検討の結果、体制増強は水先人の効率向上に繋がると判断し、2017年2月より大分港水先人当直者を増強するトライアルを開始。

## ＜内容＞

当直者 1週間交代 5時-20時 従来1級水先人1名→1級1名+2級1名の2名  
 当番者 日替りで 12時-翌12時 0名→1級2名 の2名  
 結果、日中5時から20時は4名 夜間20時から5時は2名 に対応

※2級水先人は5万GT（約10万DWT）&危険物船2万GTのトン数制限（経験等で更に調整）

## ＜補足＞

- ・ 門司からの移動時間のロス等を削減→「水先人がいない」状況の解消
  - ・ 過重労働防止の規制（昼17時間中少なくとも4時間、夜は16時間中少なくとも4時間の休憩など必要）はあり。
  - ・ 気象悪化や嚮導予定がない等で、当番者の派遣実行判断をするのは 朝9時頃。
  - ・ 全水先人（約150人）に対し、大分当直及び大分当番に手配可能な1級水先人は85人前後。大分当直は約2年に1回程度。大分当番は約年9回程度となるが、大分地区への応援は都度派遣しているため、総合的な業務回数はかなりの頻度である。
- 尚、2級水先人の大分当直は現在14人であるため約年4回程度。

## 2 トライアル期間（2～5月）の実績

1) 各水先人の乗船回数： トライアル前に実施したシミュレーション並に確保できたと推測。

隻/日	シミュレーション	実績	差異
1級当直	1.55	1.76	+0.21
2級当直	1.66	1.34	-0.32
当番A	1.57	1.60	+0.03
当番B	1.28	1.50	+0.22

## ＜補足＞

- ・ 2級が若干実績低：対象船の船数が減った為と推測される
- ・ 応援水先人もシミュレーションと同等（430人→70人/3ヶ月）に削減できたと推測

2) 費用面：大分待機の分、旅費待機料/キャンセル料が減少。一部負担金（概ね宿泊費）増はあるが水先料金以外に関して、26,836円/隻から22,052円/隻に減少

トライアル実施を年間実施予測に置き換えると、コスト削減効果の見込みあり

3) 課題 : 水先依頼時間変更による休養時間の減少(確保が課題)

- 水先依頼時間変更(荷役等の遅れ)に対応し、休養できぬまま次に乗船する為、疲労が溜まることによる影響が出る。個々のバスと建設的な意見交換を通じて解決したい
- ・ 国土交通省が定めた「水先約款」では、予定の変更は20時間前と記されている。

3. 企業側より

- ・ 今回トライアルに伴う体制増強で、水先人待ちの解消・配乗調整がスムーズになる等、バス側のみでなく、間に入って調整する代理店側も間違いなく恩恵を受けている。本体制を継続して頂けることが望ましいということで、大分側参加者の意見は一致。
- ・ 時間遅延が多い企業については、個別協議を行った。

4. 水先人会より

- ・ 課題の解決に向けて、個々に協議をしていく。
- ・ また水先人独自で、各港でのユーザーとの意見交換会を実施している(姫路・広島・岩国・水島/福山等)が、いずれ大分でも開催を検討。安全を確保しながら、可能な対応を検討する(意見交換会は11月頃を想定)

以上